

## 沖縄語の焦点構造とモーダルな文のタイプ (中間報告)

狩俣繁久

### 1. はじめに

琉球諸語には“係助詞”があり、文末述語との間に支配・被支配の関係（係り結び）が活きているといわれていた。狩俣(2011)は、沖縄語今帰仁方言の**ドウ**、**ガ**、**クセー**、同那覇方言の**ドウ**、**ガ**、宮古語平良方言の**ドウ**、**ガ**、**ヌ**、八重山語石垣方言の**ドウ**を検討した。そして、“係助詞”と文末述語との間に支配・被支配の関係が無く、“係助詞”の機能が焦点化であることを確認した<sup>1</sup>。“係助詞”が文末の形式を支配せず、その機能が焦点化なら、これを焦点助詞と呼ぶことも提案した。焦点助詞は、文のモダリティを表す主要な役割を担う文末の述語の形式を支配しないのだが、焦点助詞とモダリティ形式との間に“係り結び”の存在を認めさせるような何らかの関係も傾向としてある。

狩俣(2011)は複数の焦点助詞を有する謝名方言や那覇方言や下里方言ではどの焦点助詞が現れるかを決めるのはモーダルな文のタイプであることを述べた。琉球諸語に存在するとされた係り結びは、文末のモダリティ形式と焦点助詞の関係を逆にとらえたものだったのだ。なお、この考えは山田健三(2004)の「係り助詞 (I・II) は、述部の諸活用形に選択されて出現し、原則としてそこに義務的な関係はない (山田 2004:(15))」を支持する。

狩俣(2019)は**ドウ**をとりたて表現の中に位置づけ、限定（特立）を表すことを述べたが、その詳細な検討が課題として残されている。

限定	ドウ (こそ) ダキ (だけ) / ビケーン (ばかり)	反限定	ンデー (でも) ン (も)
極端	マディ (まで) / ドウン (さえ) サイ (さえ) / ンチョーン (さえ) ／ン (も)	反極端	アタイ (ぐらい)
類似	ン (も)	反類似	ヤ (は)

表1 那覇方言のとりたて助詞 (狩俣繁久 2019 の表を一部改変)

狩俣(2020)は、台詞のすべてが那覇方言で語られる沖縄芝居の脚本を使ってモーダルな文のタイプごとに**ドウ**が文中のどこに焦点を当てるかを検討した。焦点範囲を決めるの

<sup>1</sup> 以下、方言表記にカタカナを用いる。このカタカナ表記は、2022年3月発行の『琉球アジア文化論集』第8号に掲載予定の「琉球諸語の仮名文字正書法の制定にむけて」で提案している表記に基づく。なお、<sup>?</sup>ム、<sup>?</sup>ピ、<sup>?</sup>ヤ、<sup>?</sup>ティは喉頭音化した子音を含む音節を表す。

は、先行する発話者の質問内容にあり、発話者＝質問者が何を知りたいかが一義的に存在し、回答者は質問者の知りたいことを察知して質問者の知りたいことがらに焦点助詞を付けることを論じた。焦点範囲を決めているのは、発話場面における質問者の質問の動機である。また、焦点化されるのは、単語ではなく、主語、述語、補語、状況語等の文の部分で、文全体、あるいは、条件文の従属文などが焦点化されることも述べた。

本発表では沖縄語の名護市久志方言、恩納村恩納方言、同仲泊方言の肯否質問文、疑問詞質問文、疑い文、確認要求文、叙述文を検討し、焦点化に焦点助詞がどのように関わっているのか、焦点助詞の役割等について報告する<sup>2</sup>。

## 2. 久志方言

対話のなかの肯否質問文、確認要求文、疑い文、疑問詞質問文、叙述文に久志方言の焦点助詞の=ルと=ガがどのように現れるかを見てみる<sup>3</sup>。

### 2.1. 肯否質問文

次の例の A2 は肯否質問文で、目の前の鍋を見ながら、ナウイ=ツチ（鍋で）に=ルを付けて焦点化し、それが甘藷を煮る鍋か否かを確認している。肯否質問文（A2）の述語と叙述文（B1）の述語は末尾がン（以下、ン形）である。

1. A1 : チューヤ ヌー=**ガ** ニール?

(今日は 何を 煮るの?)

B1 : チューヤ キンヌー フタヌ ?ムー ニン。

(今日は、昨日 掘った 甘藷を 煮る。)

A2 : クヌ ナウイ=ツチ=ル ニン?

(この 鍋で 煮るの?)

B2 : ンーン、 グマハクトウ ウヌ ナウイ=ツチ=ヤ ニラン。

(ううん、 小さいから その 鍋では 煮ない。)

例 2. は主語ヤカー（兄）に主格助詞=**ガ**と焦点助詞=**ル**を後接させて主語に焦点を当てている。例 3. と 4. は、食が進まないのを見た場面を想定したもので、述語形容詞の否定

---

<sup>2</sup> 調査に用いた調査票は文法的意味を重視した文法記述に一步踏み出すことを意図し、「姉さんが東京から来る。」「姉さんはいつ来るの?」「明日来る。」「姉さんが来るから、孫も来るだろう。」、あるいは、「汚れた皿とお椀は私が洗う。」「私は兄さんに鍋を洗ってもらった。」「兄さんが君の代わりに鍋を洗ってくれたの?」等、文法的意味の記述を助けられるよう具体的な場面を設定し対話風に並べるよう心がけた。この調査票は簡易的な文法記述を行うためのもので、動詞形態論 (182 例文)、動詞述語を中心にした構文論 (214 例文)、形容詞 (特性形容詞と状態形容詞) と述語名詞 (繫詞) の活用形 (294 例文)、格助詞ととりたて助詞 (116 例文)、存在動詞「有る、無い」の活用形 (78 例文) の 5 種類の調査票 (計 884 例文) から成る。上記地点の調査は進行中である。

<sup>3</sup> このルは謝名方言や那覇方言のドウの変種で、du の d が r に変化したものである。

形のマーク ネン (美味くない)、マーク ネンナタン (美味くなかった) が焦点化されている。ネン (ない) の連用形に=**ル**を付け、文法化したアン (有る) の非過去のアンと過去のアタンを組み合わせている。=**ル**を含まない肯否質問文は多い (例 5.)。

2. ヤカー=**ガ**=**ル** ニータン? ソークトゥナー?  
(兄さんが 煮たの? 本当なの?)
3. <sup>?</sup>ピージャヌ シル マーク ネンナ=**ル** アン?  
(山羊の 汁、 おいしくないの?)
4. チューヌ ユーバン マーク ネンナ=**ル** アータン?  
(今日の タごはん、おいしく なかったの?)
5. マーマヌ 'ウトウンゲ チュン?  
(姉さんの 夫も 来るの?)  
ンー、 チュン。  
(うん、 来る。)

## 2.2. 確認要求文

次の例 6.は、家族で食べるつもりで買って来た天ぷらが全部無くなっているのを見た父が息子を問い詰めている場面の確認要求文。確認したい文の部分に=**ル**を付ける。確認要求文 (A1) の述語は、**ン**形の**ン**を**ラヤー**に変えた形式 (以下、**ラヤー形**) である。B2 はそれに対する回答で、誰が食べたかの部分 (主語) に=**ル**がついている。この=**ル**は日本語の排他的**が**に似る。例 7.も同じ。例 8.のように焦点助詞を含まない確認要求文もある。例 6.B1 については後述する。

6. A1 : <sup>?</sup>ヤー=**ガ**=**ル** ティンプラ ムヌ カダラヤー?  
(お前が 天ぷらを 全部 食べただろう?)  
B1 : ワヌヤ <sup>?</sup>ティチ=**ル** カダンドー。  
(私は 一つしか 食べなかったよ。)  
B2 : ヌクタヌ ティンプラ=**ヤ** アンマー=**ガ**=**ル** カミタンドー。  
(残った テンプラは、 母さんが 食べたんだよ。)
7. A1 : クヌ マームヤ アンマー=**ガ**=**ル** ニチャラヤー?  
(この 里芋は 母さんが 煮たんだらう?)  
B1 : ンー。 アンマーガ ニチェヌ マームヤ マーハタン。  
(うん。 母さん=**が** 煮た 里芋は おいしかった。)
8. A1 : ワーガー イチャーヌ トゥーイ チュータラヤ?  
(私が 言った 通り 来たらう?)  
B1 : ンー、 キンヌー チョータヌ チューガ チューン チュータン。  
(うん、 昨日 来ていた 人が 今日も 来た。)

## 2.4. 疑い文<sup>4</sup>

疑い文には疑問詞を含む文と、疑問詞を含まない文の二つのタイプがある。述語には、**ン**形の**ン**を**カヤ**に変えた**カヤ**形と、**ルヤ**に変えた**ルヤ**形の二つがある。**カヤ**形と**ルヤ**形は取り換えが可能である。なお、その違いについては調査中である。

疑問詞を含む疑い文の**ばあい**、疑問詞に=**ガ**を付けるもの(例 9A1, 10.A1)と付けないもの(例 11.A1, 12.A1)があるが、焦点は=**ガ**の有無にかかわらず疑問詞にある。疑問詞を含まない**ばあい**、不確かな情報を差し出す部分に=**ル**を後接させるもの(例 12.A2)がある。疑問詞や=**ル**の後接する部分に焦点があるのは、肯否質問文、および、後述の疑問詞質問文の**ばあい**と同じである。なお、=**ガ**も=**ル**もない疑い文(例 13.A1)もある。

9. A1 : ヌーディチ=**ガ** クンナタルヤー? / クンナタッカヤー?

(何故、 来なかったのかなあ。)

B1 : クンドウヤ ウーカディヌ マンドータクトウ=**ル** クンナタル。

(今年は 台風が 多かったから、 来なかったんだよ。)

10. A1 : ヌーディチ=**ガ** アッチョヌ トウクマケ アータルヤー。

(何故 そんな ところに 有ったのかなあ。)

B1 : ウンメーガ ウチェクトク=**ル** ウマケ アーテル。

(おじいさんが 置いたから、 そこに あったんだよ。)

11. A1 : ヌーディチ ネンナタルヤー? / ネンナタッカヤー?

(何故 無かったのかなあ。(独り言のように))

B1 : ウットウヌ カデクトウ ネンナテル。

(弟が 食べたから、 無かったんだよ。)

12. A1 : タロー・トウ ファナコ=ヤ ダルガ シージャーガヤ<sup>5</sup>。

(太郎と 花子は 誰が 年上かなあ。)

A2 : ファナコ・ガ タロー・ヨカ シージャー=**ル** エータッカヤー。

(花子が 太郎より 年上 だったのかなあ。)

13. A1 : グンボーンゲ マンナナ イッティ ニラッカヤー。

(ゴボウも 一緒に 入れて 煮ないかなあ。)

B1 : グンボーヤ ニランナヌ ファドウ。

(ゴボウは 煮ないだろう。)

<sup>4</sup> 話し手にとって直接確認できない未確認の部分があり、その“疑い”を未確認のまま述べる文をここでは仮に疑い文と呼ぶ。投げ出された疑いに対して近くにいる人が答えることはあるが、質問文や確認要求文に認められる問いかけ性は希薄である。調査では「(独り言のように)」という補いを付けて聞き出している。

<sup>5</sup> **カヤ**と**ガヤ**は音声的な変種。それぞれがどのような条件で現れるかは未確認。

A2 : エーサ、 シキ アラクトゥ、 グンボーヤ ニランナル。  
(そうか、 好きじゃないから、 ゴボウは 煮ないんだ。)

### 2.3. 疑問詞質問文

久志方言の疑問詞にはダル(誰)、ヌーディチ(何故)、イトゥ(いつ)、ディンヌ(どの)、ディル(どれ)、ヌー(何)等がある。疑問詞に焦点助詞=**ガ**の付いたもの(例 14、16)と付かないもの(例 15、17)がある。=**ガ**の有無にかかわらず疑問詞質問文の述語の形式は、叙述形の末尾の-**ン**を-**ル**に変えた**ル形**である。なお、久志方言の**ル形**は、語末が-**ヌ**の連体形(以下、**ヌ形**)とは語形が異なる。

14. チュー-ヌ マーム=ヤ ダルガ=ガ ニチャル?  
(今日の 里芋は 誰が 煮たの?)
15. クヌ マーム=ヤ ダルガ カミル?  
(この サトイモは 誰が 食べるの?)
16. ヌーディチ=ガ クンナル?  
(何故 来ないの。)
17. ヌーディチ ヤーク ネンナル アタル?  
(何故 ひもじく なかったの?)

疑問詞質問文に答える叙述文は=**ル**を含む文と含まない文がある。次の2例は同じ疑問詞イトゥ(いつ)が使用されているが、前者は二者択一の答えを求め、答えの文には=**ル**が使用されている。この=**ル**も日本語の排他的**が**に似る。

18. A1 : キンヌートゥ チュー イトウガ ヤーハル?  
(昨日と 今日 いつが ひもじいの?)  
B1 : チュー-ヌ=**ル** ヤーハル。  
(今日が ひもじい。)
19. A1 : マーマーヤ イトウ=ガ チュール?  
(姉さんは いつ 来るの。)  
B1 : アチャー チュン。 オーサカヌ ヤカーヤ クーヌ ファドゥ。  
(明日、 来る。 大阪の 兄さんは 来ないだろう。)

### 2.5. 叙述文

叙述文には=**ル**があつて**ル形**を述語に持つタイプ(例 20.B3)、=**ル**があつても**ン形**で終わるタイプ(21.B2)、=**ル**が無いのに**ル形**を述語に持つタイプ(例 22.A2)がある。

20. A1 : イラナ エーネー、 イー ヤーケンゲ アーテサニ?

- (鎌なら 君の 家にも あっただろう?)
- B1: ンー、 ヤーケヤ イラナ ネンナタン。  
(ううん、 家には 鎌は 無かった。)
- B2: ウンメーガ ヤーケ アーテクトウ ムッチ チャン。  
(じいさんの 家に 有ったから、 持って きた。)
- A2: ウンメーガ ヤーケ アータン?  
(おじいさんの 家に 有ったのか?)
- B3: ウンメーガ ヤー エーテクトウ=ル アール。 イガ ヤーケヤ ネン。  
(おじいさんの 家だから あるんだよ。私の 家には 無い。)
21. A1: <sup>?</sup>ヤー=ガ=ル ティンプラ ムヌ カダラヤー?  
(お前が 天ぷらを 全部 食べたろう?)
- B1: ワヌヤ <sup>?</sup>ティチ=ル カダンドー。  
(私は 一つしか 食べなかったよ。)
- B2: ヌクタヌ ティンプラ=ヤ アンマー=ガ=ル カミタンドー。  
(残った テンプラは、 母さんが 食べたんだよ。)
22. A1: グンボーング マンナナ イッティ ニラッカヤー。  
(ゴボウも 一緒に 入れて 煮ないかなあ。)
- B1: グンボーヤ ニランナヌ ファドゥ。  
(ゴボウは 煮ないだろう。)
- A2: エーサ、 シキ アラクトウ、 グンボーヤ ニランナル。  
(そうか、 好きじゃないから、 ゴボウは 煮ないんだ。)

次の例 23.B1 と例 24.B1 は、いずれも疑い文の後の叙述文である。後者は上の 22.A2 と同じく、=ルが無いのにル形を述語に持つ。

23. A1: ヌーディチ=ガ アッチョヌ トウクマケ アータルヤー。  
(何故 そんな ところに 有ったのかなあ。)
- B1: ウンメーガ ウチェクトク=ル ウマケ アール。  
(おじいさんが 置いたから、 そこに あったんだ。)
24. A1: ヌーディチ ネンナタルヤー? / ネンナタッカヤー?  
(何故 無かったのかなあ。)
- B1: ウットウヌ カデクトウ ネンナテル。  
(弟が 食べたから、 無かったんだ。)

=ルの有無にかかわらず文末の述語をル形にする叙述文がある。ル形終止の 22.A2 と 23.B1 と 24.B1 の三つの文は、煮ないことの原因、鎌が有ったことの原因、無かったことの原因を述べる「説明」のノダ文に似る。

次の B1 のル形終止の文も、煮なかったことの原因を説明している。ノダ文に似る。

25. A1 : マーム ニレンディ イチャスガ、 ニランナ=**ル** アータン?

(里芋を 煮ろって いったのに、煮なかったのか?)

B1 : ヤカーガ ニータグトゥ=**ル** ワヌヤ ニランナタル。

(兄さんが 煮たから、 私は 煮なかったのだ。)

A2 : ヤカー=**ガ**=**ル** ニータン? ソークトゥナー?

(兄さんが 煮たの? 本当なの?)

B2 : ンー。 ヤカーヤ カミファヌ ウッサ ニータン。

(うん。 兄さんは 食べきれないくらい 煮た。)

### 2.5.2 発見

予想してなかった意外な事実の発見を表す文(例 26. と 27.) に=**ル**が現れる。例 26.A4 の述語はル形である。

26. A1 : コーイムヌ シーガ イキネヤ サイフ アータスガ カメララン。

(買い物を しに いったときは 財布は あったのに みつからない。)

A2 : ヌーディチガ ネンナルヤー。

(なんで 無いかなあ。)

B1 : クルマヌ ナカケヤ ネンナテサニ?

(車の 中には 無かったんだろう?)

A3 : ウン、 クルマケヤ ネーヌ ファドゥ。

(うん、 車には 無いだろう。)

A4 : アー、 クマ=ケ=**ル** アーテル。

(ああ、 ここに あったんだ。想定外の場所で見つけて)

A5 : チチャクケ アースガ=**ル** キー チカンナタン。

(近くに 有るのに、気が 付かなかった。)

27. 想定外の台所で鎌を見つけて、

アータン! アータン! クマ=ケ=**ル** アーテッサヤー。

(有った! 有った! ここに 有ったんだ。)

### 2.5.3 必然表現

必然表現を表す述語形式にも=**ル**が現れる。=**ル**と文末のル形が呼応しているようにみえるが、必然表現の肯否質問文では叙述形と同音の形式が現れる。

28. キンヌー=**ヤ** ニランナテクトゥ チュー=**ヤ** ニリワ=**ル** エル。

(昨日は、 煮なかったから、 今日 煮なければ ならない。)

29. マーク ネンナティング ムヌ カミワ=ル エン?  
(美味しく なくても 全部 食べなければ いけないの?)

以上の他に=ルには次の用法がある。

## 2.6. 限定

30. イッテミ=ル ニチャスガ ヤファラク ナトン。  
(少ししか 煮なかったのに 柔らかく なっている。)
31. ワヌヤ <sup>?</sup>ティチ=ル カダンドー。  
(私は 一つしか 食べなかったよ。)

## 2.7. 久志方言のまとめ

### 焦点助詞=ル

- a) =ルには、限定(特立)の用法がある。  
イッテミ=ル ニチャスガ ヤファラク ナトン。(少ししか煮なかったのに柔らかくなっている。)
- b) =ルには排他・指定強調の用法がある。  
チュー=ヌ=ル ヤーハル。(今日がひもじい。)
- c) =ルは、肯否質問文、疑い文、確認要求文、叙述文に現れる。  
肯否質問文
- d) 特定の部分に焦点を当てるとき、そこに=ルを付ける。  
クヌ ノウイ=ツチ=ル ニン?(この鍋で煮るの?)
- e) 述語は、=ルの有無にかかわらず、叙述文の述語と同じン形である。  
マーマヌ 'ウトウンゲ チュン? ンー、チュン。(姉さんの夫も来るの?うん、来る。)

### 確認要求文

- f) 特定の部分に焦点を当てるとき、そこに=ルを付ける。  
<sup>?</sup>ヤー=ガ=ル テンプラ ムヌ カダラヤー?(お前が天ぷらを全部食べたろう?)
- g) 述語は、=ルの有無にかかわらず、ラヤー形である。  
ワーガー イチャーヌ トーイ チュータラヤ?(私が言った通り来たろう?)

### 焦点助詞=ガ

- h) =ガは、疑問詞質問文、および疑問詞を含む疑い文に現れる。

### 疑問詞質問文

- i) =ガの有無にかかわらず、疑問詞に焦点があり、文末はル形である。  
ヌーディチ=ガ/ヌーディチ クナル?(何故来ないの?)

### 疑い文

- j) 疑問詞を含む疑い文は、=ガの有無にかかわらず、疑問詞に焦点があり、文末はカヤー形、あるいは、ルヤー形である。  
ヌーディチ=ガ クンナタルヤー?/クンナタツカヤー?(何故来なかったのかなあ。)



k) 疑問詞を含まない疑い文で、特定の部分に焦点を当てるときは=ルを用いる。

l) =ルの有無にかかわらず、文末はカヤー形、あるいは、ルヤー形である。

ファナコ=ガ タロー=ヨカ シージャー=ル エータツカヤー。

(花子が 太郎より 年上 だったのかなあ。)

タロー=トウ ファナコ=ヤ ダル=ガ シージャーガヤ。

(太郎と 花子は 誰が 年上かなあ。)

m) =ルは、発見の文に現れる。

アー、クマケ=ル アーテル。(ああ、ここにあったんだ。)

n) =ルは、必然表現の文に現れる。

チュー=ヤ ニリワ=ル エル。(今日は 煮なければならない。)

## ル形

o) 述語に現れるル形は、連体形(又形)とは形式が異なる。

p) ル形は、疑問詞質問文、叙述文に現れるが、=ガ、=ルは義務的ではない。

q) 述語がル形の叙述文は、理由を述べる説明のノダ文に似る。=ルの有無は問わない。

ウツウヌ カデクトウ ネンナテル。(弟が食べたから、無かったんだ。)

## 3. 恩納村恩納方言

### 3.1. 限定

32. イーピ=ル ニチェグアル ヤッパラハ ナートウン。

(少ししか 煮なかったのに 柔らかく なっている。)

33. イーピ=ル ヌーデグアル 'イーティ ネン。

(少ししか 飲んでいないのに、酔って しまった。)

34. ワンヤ ティーツ=ル カダル/カダンドー。

(私は 一つだけ 食べたんだよ。)

### 3.2. 肯否質問文

特定の部分に焦点を当てるとき、そこに=ルを付ける(例 35.A1、36.A1、37.A1)。=ルを含まない肯否質問文(38.A1、39.A1)もある。=ルの有無にかかわらず述語は、ン形にナーを付けた形式である。

35. A1: ピージャヌ シル カマン=ル アンナ?

(ヤギの 汁を 食べないの?)

B1: ワータヌ ヤミテグトウ=ル カマンテサニ。

(お腹が 痛かったから、食べなかったんだよ。)

36. A1: クリ ナービ=チ=ル ニンナー。

(この 鍋で 煮るの?)

B1: ンーンン。グナハグトゥ クリ ナービチヤ ニラン。

(ううん。小さいから その 鍋では 煮ない。)

37. A1: スーヤ チンクァー ニラン=ル アンナー。

(今日は かぼちやを 煮ないのか?)

B1: キヌー ニチェグトゥ スーヤ ニランドー。

(昨日 煮たから 今日は 煮ないよ。)

38. A1: ニーサンガ カミタンナー。フントーナー。

(兄さんが 食べたの? 本当なの?)

B1: アリガ=ル カミタンドー。

(あいつが 食べたんだよ)

39. A1: ヤマトウンチューン ナーベラー カミンナー。

(本土の人も ヘチマを 食べるの?)

B1: ンーンン。ヤマトウンチューヤ ナーベラーヤ カマン。

(ううん。 本土の人は ヘチマは 食べない。)

### 3.3. 疑問詞質問文

疑問詞質問文は、ヌー(何)、タル(誰)等の疑問詞がある。文末の述語は、ン形のンをゲーに取り換えた形式である。疑問詞には焦点助詞は付かないが、焦点は疑問詞にある。疑問詞に答える部分に=ルを付けて焦点化する(41.B1、42.B1、43.B1、44.B1)。=ルを含まない答えの文(45.B1,46.B1)もある。

40. A1: ?マーケ ウチェヌ ?ユーヤ ターガ カミタゲー。

(そこに 置いた 魚は 誰が 食べたの?)

A2: インヌ=ガ=ル カミタガヤー。

(犬が 食べたのかなあ。)

B1: インヌ=ガ=ル カデサニ?

(犬が 食べたんだろう?)

41. A1: スーヌ マームヤ ターガ ニチャゲ。

(今日の 里芋は 誰が 煮たの?)

B1: ウリ マームヤ アンマーガ=ル ニチャンドー。ワーガヤ ニランドー。

(その 里芋は 母さんが 煮たんだよ。私は 煮ないよ。)

42. A1: オーバーガ ニランダラ ターガ ニーゲ。

(おばあさんが 煮ないなら 誰が 煮るの?)

B1: ネーネ=ガ=ル ニーラハジ。

(姉さんが 煮るだろう。)

B2: マルケーティヤ ジョーシキシーブサンディ イーテグトゥ。

- (たまには 料理してみたって 言っていたから。)
43. A1 : シーガ ピージャヌ シル カマンガ。 マーコー ネーンナー。  
(何故 ヤギの 汁を 食べないの? おいしく ないの?)  
B1 : ワータヌ ヤミテグトウ=**ル** カマンテサニ?  
(お腹が 痛かったから、 食べなかったんじゃないの?)
44. A1 : ウリ マームヤ ターガ カミゲー。  
(この 里芋は 誰が 食べるの?)  
B1 : アバーガ=**ル** カミル。 ワンヤ カマン。  
(姉さんが 食べるんだ。 私は 食べない。)
45. A1 : スーヤ ヌー ニーゲー?  
(今日は 何を 煮るの?)  
B1 : スーヤ キヌー プーテヌ ?ムー ニーン/ニーハ。  
(今日は、昨日 掘った 甘藷を 煮る。)
46. A1 : スーヌ ヒティミティムンヤ ヌー カダゲー。  
(今日の 朝ごはんは 何を 食べたの?)  
B1 : スーブイ カダン。  
(冬瓜を 食べた。)

疑問詞質問文を使って詰問したり非難したりするときは、述語の語尾が**ル**形になる。

47. A1 : クーヤ クランティン シミンディ イチェルムンヌ チーナー。  
(今日は 来なくても いいって 言ったのに 来たの?)  
シーガ チャール。  
(なぜ、 来たんだ?)  
B1 : アワティヌ ユージュヌ アータグトウ=**ル** チャンドー。  
(急ぎの 用事が あったから、 来たんだよ。  
アスビガヤ クランタンドー。  
(遊びには 来なかったよ。)
48. A1 : シーガ ピージャヌ シル カマンナル。  
(何故 ヤギの 汁を 食べないのだ?)  
B1 : ワータヌ ヤミテグトウ=**ル** カマンテサニ。  
(お腹が 痛かったから、 食べなかったんだ。)

### 3.4. 確認要求文

特定の部分に焦点を当てるとき、そこに=**ル**を付ける。=**ル**を含まない確認要求文もある。述語は、=**ル**の有無にかかわらず、**ラヤー**形である

49. A1 : ?ヤー=ガ=ル アンダギー ムル カダラヤー。  
 (お前が 天ぷらを 全部 食べただろう?)  
 B1 : ワンヤ ティーツ=ル カダル/カダンドー。  
 (私は 一つだけ 食べたんだよ。)  
 B2 : ヌクトゥヌ テンプラーヤ ムル アンマー=ガ=ル カミタンドー。  
 (残った テンプラは、 全部 母さんが 食べたんだよ。)
50. A1 : ?ヤーン バサナイ カミラヤー。  
 (お前も バナナを 食べるだろう?)  
 B1 : ンー、 カミン。  
 (うん、 食べる)

### 3.5. 疑い文

疑い文は不確かな情報の差し出し方に二つのタイプがある。一つは疑問詞を用いて差し出すもの(51.A1、52.A1、53.A1)で、もう一つは、疑問詞を用いず不確かな情報を差し出す部分に焦点助詞=ルを後接させるもの(54.A2)である。疑問詞や焦点助詞の後接する部分を焦点化するのは、疑問詞質問文、および、肯否質問文のばあいと同じである。

述語の形式は、ン形のンをガヤーに取り換えたガヤー形と、ル形にヤーを付けたルヤー形の二つがある。両者の使いわけは現段階では未確認である。

なお、53.A1の疑問詞には焦点助詞=ガが付いていて、なおかつ、述語はルヤー形である。52.A1の例は、ガヤー形とルヤー形が交代可能だが、53.A1の文では交替ができない。=ガの存在が影響を与えていると考えられるが、詳細は未確認である。

51. A1 : ターガ クァーシ カダガヤー。  
 (誰が 菓子を 食べたのかなあ。)  
 B1 : クァーシヤ ウットウガ カダラパジ。  
 (菓子は 妹が 食べただろう。)
52. A1 : タカ、 クンドゥヤ ンーガ クラントルヤー/クランタガヤー。  
 (サシバ、今年は何故 来なかったのかなあ。)  
 B1 : クンドゥヤ カジプーキ アポホテグトゥ=ル クランテサニ。  
 (今年台風が多かったから、 来なかったんだよ。)  
 B1 : タカ、クズヤ クータンドー。  
 (サシバ、去年は来よかったよ。)  
 B1 : エンナー? クー=ル スーティナー?  
 (そうなの? 来たの?)
53. A1 : ターガ=ガ ウリ クァーシ カダルヤー。  
 (誰が その 菓子を 食べたのかなあ。)  
 B1 : クァーシヤ ウットウガ カダラパジ。

(お菓子は 妹が 食べただろう。)

54. A1 : ?マーケ ウチェヌ ?ユーヤ ターガ カミタゲー。

(そこに 置いた 魚は 誰が 食べたの?)

A1 : インヌ=ガ=ル カミタガヤー。

(犬が 食べたのかな。)

B1 : トゥナイヌ マーヤガ カミタラパジ。

(隣の 猫が 食べただろう。)

### 3.6. 恩納方言のまとめ

a) =ルには、限定(特立)の用法がある。

イーピ=ル ヌーデグアル 'イーティ ネン。(少ししか飲んでいないのに、酔ってしまった。)

#### 肯否質問文

b) 特定の部分に焦点を当てるとき、そこに=ルを付ける。

クリ ナービチ=ル ニンナー?(この鍋で煮るの?)

c) 述語は、=ルの有無にかかわらず、ン形に終助詞ナーを付けた形式である。

ヤマトゥンチューン ナーバーラー カミンナー。(本土の人もヘチマを食べるの?)

#### 確認要求文

d) 特定の部分に焦点を当てるとき、そこに=ルを付ける。

?ヤー=ガ=ル アンダギー ムル カミラヤー?(お前が天ぷらを全部食べるだろう?)

e) 述語は、=ルの有無にかかわらず、ラヤー形である。

?ヤーン バサナイ カミラヤー。(お前もバナナを食べるだろう?)

#### 疑問詞質問文

f) =ガも=ルも含まない。疑問詞に焦点があり、文末はゲー形である。

スーヤ ヌー カミゲー?(今日は 何を 食べるの?)

#### 疑い文

g) 疑問詞を含む疑い文は、疑問詞に焦点があり、文末はガヤー形、あるいは、ルヤー形である。

タカ、クンドウヤ ンーガ クラントルヤー/クランタガヤー。

(サシバ、今年は何故来なかったのかなあ。)

h) 疑問詞を含まない疑い文で、特定の部分に焦点を当てるときは=ルを用いる。

インヌ=ガ=ル カミガヤー。(犬が食べるのかな。)

i) =ガは、疑問詞を含む疑い文に現れる。述語はルヤー形である。

ター=ガ=ガ ウリ クァーシ カダルヤー。(誰がその菓子を食べたのかなあ。)

#### ル形

j) =ルは、肯否質問文、疑い文、確認要求文、叙述文に現れる。

k) 述語に現れるル形は、連体形(ヌ形)とは形式が異なる。

l) =ルを含む叙述文は、ル形になることも、ル形以外の形式になることもある。

- m) **ル形**は、叙述文に現れるが、=**ル**は義務的ではない。  
n) 疑問詞質問文の述語を**ル形**にすると、詰問する文になる。  
    シーガ カミル。(なぜ、食べるんだ。)

## 4. 恩納村仲泊方言

### 4.1. 限定

55. ワンノー イフィ=ル ヌデーヒガ ケーイトーン。  
    (私は 少しだけ 飲んだが、酔ってしまった)。  
56. イフィ=ル ニチェーヒガ ヤファラカク ナトーン。  
    (少ししか 煮なかったのに 柔らかく なっている。)  
57. イットゥチ=ル ニランソーティ ヤファラカク ナトーン。  
    (少ししか 煮なかったのに 柔らかく なっている。)

### 4.2. 肯否質問質問文

肯否質問文は、確認したい文の部分に=**ル**を付ける。述語は叙述形と同音の**ン形**、叙述形に終助詞**ナー**を付けた形式が現れる。二つの形式は入れ替えが可能。肯否質問文と疑問詞質問文の述語の形式は同じ。

58. A1 : ヤー=ガ=**ル** フテーン?  
    (君が 掘ったの?)  
    B1 : ワー=ガ=**ル** フテンドー。  
    (私が 掘ったんだヨ。)  
59. A1 : チューヌ ユーバン マーコー ネーン=**ル** アイタンナー。  
    (今日の タごはん、おいしく なかったの?)  
    B1 : マーコー ネーンタクトゥ ハンブン ヌクチ=**ル** アイル。  
    (おいしく なかったから、はんぶん 残したんだ。)  
60. A1 : チンヌク ニリンディ イチェーヒガ ニランタンナー。  
    (里芋を 煮ろって いったのに 煮なかったのか?)  
    B1 : アッピー=ガ ニータクトゥ ワンネー ニランタン。  
    (兄さんが 煮たから、私は 煮なかった。)

### 4.3. 疑問詞質問文

疑問詞には焦点助詞が付かない。述語は叙述形と同音の**ン形**、および、**ン形**に終助詞**ナー**を付けた形式が現れる。二つの形式は入れ替えが可能。

61. A1 : タ=ガ クジェンナー?  
(誰が 漕いだの?)  
B1 : ワー=ガ クージェンドー。  
(俺が 漕いだよ)。
62. A1 : タル=ガ アイティ/タルガ アイチェン?  
(誰が 言った?)  
B1 : ワー アイチェン。  
(私が 言った。)

疑問詞質問文の述語を**ル形**にすると、詰問する文(例 63.)になる。

63. ヌーガ クァーシ カマンタル。  
(何故 菓子を 食べなかったんだ。)
64. ヌーガ クァーシ カマンタンナー。  
(何故、菓子を 食べなかったの?)
65. ヌーガ クァーシ カマンタガヤー。  
(何故、菓子を 食べなかったのかなあ。)

#### 4.4. 確認要求文

66. A1 : ?ヤーガ=**ル** テンプラーヤ ムル カデーハニ。  
(お前が天ぷらを全部食べただろう?)  
B1 : ワンノー ティーチ=**ル** カデーンドー。  
(私は 一つだけ 食べたんだよ。)  
B2 : ヌクトーヌ テンプラーヤ ムル アンマー=**ガ=ル** カミタンドー。  
(残った テンプラは 全部 母さんが 食べたんだ。)
67. A1 : ?ヤーン ウケーメーヤ カマンテーハニ?  
(お前も お粥を 食べなかったんだらう?)
68. A1 : チヌーヤ クーンテーハニ?  
(昨日は 来なかったんだらう?)  
A1 : ヌーガ クーンテール。  
(なぜ 来なかったんだ?)  
A1 : イチュナハヌ チブルン ヤミタクトウ クーンタン。  
(忙しかったし、頭も 痛かったから、来なかった。)
69. A1 : ワーガ イチェーヌ トゥーイ チョータラヤー  
(私が 言った 通り、 来ただらう?)  
B1 : ンー、 チヌー チョータヌ チュガ チューン チョータン。  
(うん、 昨日 来た 人が 今日も 来た。)

70. A1 : アチャ クーンハニ。

(明日は 来ないんだろう?)

B1 : ンー、 ハタキンカイ イチュクトゥ クーン。

(うん、 畑に 行くから 来ない。)

#### 4.5. 疑い文

疑い文は、疑問詞を用いる疑い文と疑問詞を用いない疑い文がある。疑問詞を用いる疑い文は疑問詞によって未確認の情報が差し出される。疑問詞を用いない疑い文は、=ルを付けた部分に未確認の情報が差し出される。疑問詞や焦点助詞=ルの付いた部分が焦点化されるのは疑問詞質問文、および、肯否質問文のばあいと同じである。疑い文の述語は**ガヤー**である。**ル形**に**ヤー**を付けた形式もある。その使い分けなどは未確認である。

71. A1 : タ=ガ チンクァー ニチェーガヤー?

(誰が カボチャを 煮たのかなあ?)

B1 : ウヌ チンクァーヤ アンマー=ガ=ル ニチェーンハジドー。

(その カボチャは 母さんが 煮ただろう。)

72. A1 : タガ クァーシェー カダガヤー。

(誰が 菓子を 食べたのかなあ。)

B1 : クァーシェー ウットウ=ヌ=ル カデーハジロー。

(菓子は 妹が 食べただろう。)

73. A1 : チャーチャーシ バナナー カミガヤー。

(父さんも バナナ 食べるかなあ。)

B1 : チャーチャーシ カミン ハジロー。

(父さんも 食べるだろう。)

74. A1 : タカー クンドー クーンタンヤー。

(サシバ、 今年は 来なかったねえ。)

A2 : ナー クーン=ル アイガヤー。

(もう 来ないかなあ。)(渡り鳥のサシバが見えないので。独り言のように)

A3 : ヌーガ クーンタガヤー。 / クーンテールヤー。

(何故、 来なかったのかなあ。)

B1 : クンドー カジヌ ウフサヌ=ル クーンテール。

(今年は 台風が 多かったから、 来なかったんだよ。)

75. A1 : グンボーン マンナ イッティ ニランガヤー。

(ゴボウも 一緒に 入れて 煮ないかなあ。)

B1 : グンボーヤ ニランハジドー。

(ゴボウは 煮ないだろう。)

B2 : グンボーヤ シチェー アランクトウ=ル ニランドー。



(ゴボウは 好きじゃ ないから、 煮ないんだ。)

76. アンチ マーハシガ=**ル** アヌ クァヤ ヌーンディ ヌクチャガヤー。  
(こんなに 美味しいのに、 あの 子は 何故 残したのかなあ。)

#### 4.6. 叙述文

77. A1 : ヤーコー ネーン トウチ ヤティン カミヒ=**ル** マシドー。  
(ひもじく ない 時でも 食べるのが いいよ。)
78. A1 : ヘー タローヌ クルマヤ クルー=**ル** ヤテーハヤー  
(へえ 太郎の 車って 黒かったんだ。)
79. A1 : ヘェー パーパー=**ガ**=**ル** シージャヤテーハヤー  
(へえ、 おばあさんが 年上だったんだ。)

次の2例は主格助詞=**ガ**に付いて名詞述語文の主語に=**ル**が現れている。

80. A1 : アッピー=**ガ**=**ル** シージャ ヤタンナー?  
(兄さんが 年上だったの?)  
B1 : ンーンー シージャヤ アランタン  
(ううん、 年上じゃ なかった。)
81. A1 : ヤー=**ガ**=**ル** シージャ ヤンナー  
(あなたが 年上なの?)  
B1 : ンーンー シージャヤ アラン  
(ううん、 年上じゃない。)

#### 4.7 仲泊方言のまとめ

- a) =**ル**には、限定(特立)の用法がある。

ワンノー イフイ=**ル** ヌデーヒガ ケーイトーン。(私は少しだけ飲んだのに酔ってしまった)。

##### 肯否質問文

- b) 特定の部分に焦点を当てるとき、そこに=**ル**を付ける。

ヤー=**ガ**=**ル** フテーン?(君が掘ったの?)

- c) 述語は=**ル**の有無にかかわらず、**ン**形あるいは**ン**形に終助詞ナーを付けた形式である。

ヤマトウンチューン ナーベラー カミンナー。(本土の人もヘチマを食べるの?)

##### 疑問詞質問文

- d) =**ガ**も=**ル**も含まない。疑問詞に焦点があり、述語は肯否質問文と同じ形式である。

タガ クジェンナー?(誰が漕いだの?)

- e) 叙述文、肯否疑問文、疑問詞質問文の述語が同じ形式になる。

タガ クジェン?(誰が漕いだの?)

タローガ クジエン？(太郎が漕いだの？)

タローガ クジエン。(太郎が漕いだ。)

タロー=ガ=ル クジエン？(太郎が漕いだの？)

タロー=ガ=ル クジエン。(太郎が漕いだ。)

#### 確認要求文

f) 特定の部分に焦点を当てるとき、そこに=ルを付ける。

?ヤーガ=ル テンプラーヤ ムル カデーハニ。(お前が天ぷらを全部食べるだろう？)

g) 述語は、=ルの有無にかかわらず、ハニ形である。

アチャ クーンハニ。(明日は 来ないんだろう？)

#### 疑い文

h) 疑問詞を含む疑い文は、疑問詞に焦点があり、述語はガヤーである。

タ=ガ チンクアー ニチェーガヤー？(誰がカボチャを煮たのかなあ？)

i) 疑問詞を含まない疑い文で、特定の部分に焦点を当てるときは=ルを用いる。

ナー クーン=ル アイガヤー。(もう来ないのかなあ。)

#### ル形

j) =ルは、肯否質問文、疑い文、確認要求文、叙述文に現れる。

k) 述語に現れるル形は、連体形(ン形)と形式が異なる。

l) =ルを含む叙述文は、ル形になることも、ル形以外の形式になることもある。

m) ル形は、叙述文に現れるが、=ルは義務的ではない。

n) 疑問詞質問文の述語をル形にすると、詰問する文になる。

ヌーガ クァーシ カマンダル。(何故菓子を 食べなかったんだ。)

## 5. まとめと課題

調査は量的にも質的にも必ずしも十分ではないが<sup>6</sup>、対話の中に現れる久志方言と恩納方言と仲泊方言(以下、3方言)の文について個別に見てきた。ここでは3方言を概観してみる。

肯否質問文、確認要求文および疑問詞を含まない疑い文の=ルは、確認したいものごとを表す部分に付いて焦点化させる。話し手に欠けている情報があるとき、疑問詞質問文と疑い文を使ってその欠けている情報に対応する疑問詞によって差し出す。叙述文では相手が確認したかったものごとを表す部分を焦点化する。

話し手(話者A)にとって未確認のことがらがあるとき、焦点助詞をつけたり疑問詞を用いたりして聞き手(話者B)に伝える。話者Bは聞き手(話者A)が確認したかったことがらに焦点助詞をつけて伝える。その焦点化の仕方や述語の形式などは、文のモーダ

---

<sup>6</sup> 調査は、対面調査したことのある話者にプリントした調査票をゆうパックで送って仮名文字で方言を記入してもらったのち、返送してもらった。それを入力する過程で出てきた問題点や疑問点を赤い文字にした調査票を再送して確認してもらって返送してもらうというやり方で実施した。補充調査を対面で行った地点もある。

ルなタイプごとに決まっている。

3方言の焦点助詞および疑問詞の有無をモーダルなタイプごとに大まかに整理すると、次表のようになる。3方言のモーダルなタイプごとの述語の形式は、それぞれに共通するところもあれば異なるところもある。この表を見る限り=ルや疑問詞が文末の述語の活用形の現れ方に影響を与えていない。焦点化と文末の述語の形式の間に間接的な繋がりがあるとはいえそうだが、少なくとも支配・非支配の関係は認められない。したがって、=ルとル形は異なる視点から見る必要がある。

なお、本報告での詳細な検討はできなかったが、推量文(1.B1、2.B1)にも=ルが現れる。推量文の焦点化については調査を進めて詳細を明らかにしたい。

1. A1: ター=ガ=ガ チンクァー ニチャガヤー? 恩納  
(誰が カボチャを 煮たのかなあ。)
- B1: ウリ チンクァーヤ オツカ=ガ=ル ニチャラハジ。  
(その カボチャは 母さんが 煮ただろう。)
2. A1: タガ チンクァー ニチェーガヤー? 仲泊  
(誰が カボチャを 煮たのかなあ。)
- B1: ウヌ チンクァーヤ アンマー=ガ=ル ニチェーンハジドー。  
(その カボチャは 母さんが 煮ただろう)

狩俣(2011)、狩俣(2019)、狩俣(2020)で論じたことが3方言の検討結果にも確認できる。

第2表

		久志方言	恩納方言	仲泊方言
叙述文	=ル無	ン	ン	ン
	=ル有	ン、ル	ン、ル	ン、ル
肯否質問文	=ル無	ン	ンナー	ン、ンナー
	=ル有			
疑問詞質問文	=ガ無	ル	ゲー	
	=ガ有			
疑い文	疑問詞ガ無	カヤー、ルヤー	ガヤー、ルヤー	ガヤー
	疑問詞ガ有			
	=ル無			
	=ル有			
確認要求文	=ル無	ラヤー	ラヤー	ハニ

	=ル有			
--	-----	--	--	--

ここまでは焦点助詞と疑問詞の焦点化の働きを対話の中の文を見てきたが、ここからは対話から少し外れる文の**=ル**と**=ル形**の例をいくつか試してみる。(用例はいずれも前出のものである。)

(1) 3方言の**=ル**には限定(特立)の用法がある。狩俣繁久(2019)は、**=ル**をとりたて助詞として位置付けたが、そのことが3方言でも確認できる。次の3と4の例の日本語訳は「少しだけ煮たのに」「少しだけ飲んだのに」、5の例は「少ししか飲んでないのに」と日本語訳できるが、それぞれの方言の**=ル**を「ビケーン、ビカーン(だけ)」のとりたて助詞に置き換えることはできない。また、「しか」に相当するとりたて助詞は確認できない。

3. A1: イッテミ=ル ニチャスガ ヤファラク ナトン。久志  
(少ししか 煮なかったのに 柔らかく なっている。)
4. A1: イーピ=ル ヌーデグアル 'イーティ ネン。恩納  
(少ししか 飲んでいないのに、酔って しまった。)
5. A1: ワンノー イフィ=ル ヌデーヒガ ケーイトーン。仲泊  
(私は 少しだけ 飲んだのに 酔ってしまった。)

(2) **=ル**は、必然表現の文に現れる。これまでの調査では久志方言でしか確認できなかったが、**=ル**を使用する必然表現は、今帰仁方言や那覇方言などにも確認できる。おそらく沖縄語全体に見られるもので、残りの2方言でも確認したい。

6. A1: キンヌー=ヤ ニランナテクトゥ チュー=ヤ ニリワ=ル エル。久志  
(昨日は 煮なかったから、今日は 煮なければ ならない。)

(3) 述語が**ル形**になる叙述文には理由を述べる説明のノダ文に似るものがある。**=ル**の有無は問わない。残りの2方言でも確認したい。**=ル形**を述語に持つ文の特徴なのか、**=ル**がどこまで関わるのか、今後の検討課題である。“説明・説明され”の関係が沖縄語でどのように現れるかを明らかにすることも今後の課題である。

7. A1: ウットゥヌ カデクトゥ ネンナテル。久志  
(弟が 食べたから、無かったんだ。)
8. A1: ヤカーガ ニータグトゥ=ル ワヌヤ ニランナタル。久志  
(兄さんが煮たから、 私は 煮なかったのだ。)

(4) 疑問詞質問文の述語を**ル形**にすると、詰問する文になる。話者は「怒ったような

言い方」だと説明する。

9. A1 : シーガ カミル。恩納  
(なぜ、 食べるんだ。)
10. A1 : ヌーガ クァーシ カマンダル。仲泊  
(何故 菓子を 食べなかったんだ。)

(5) =ルは、予想外の新事実の確認を表す文に現れる。

11. A1 : アー、 クマケ=ル アートル。久志  
(ああ、 ここに あったんだ。)
12. A1 : ヘー タローヌ クルマヤ クルー=ル ヤテーハヤー仲泊  
(へえ 太郎の 車って 黒かったんだ。(太郎の買った車を初めてみて))
13. A1 : ヘー パーパー=ガ=ル シージャ ヤテーハヤー。仲泊  
(へえ、 おばあさんが 年上だったんだ。(初めておばあさんの年齢を聞いて))

(6) 今回扱った用例の中に名詞述語文は少なかったのだが、名詞述語文の主語にも=ルが現れる。

14. A1 : アッピー=ガ=ル シージャ ヤタンナー? 仲泊  
(兄さんが 年上だったの?)
- B1 : シーナー、 シージャヤ アランタン。仲泊  
(ううん、 年上じゃなかった。)

(7) 狩俣繁久(2019)でも述べたが、=ルは主格助詞ガ、ヌの後ろに付く。これはとりたて助詞=ヤ(は)、=ン(も)も同じである。=ルをとりたて助詞とみるなら、=ルの全容を解明するには、名詞述語文も含めた多くの文のなかでの=ルを=ヤ(は)、=ガ・ヌ、およびハダカ格の名詞の使い分けについて明らかにする必要があるだろう。

15. A1 : ウリ マームヤ アンマーガ=ル ニチャンドー。 ワー=ガ=ヤ ニランドー。  
(その 里芋は 母さんが 煮たんだよ。 私は 煮ないよ。)

#### 参考文献

- 狩俣繁久(2020)「沖縄語那覇方言の焦点助詞と情報構造」『南島文化』42号、沖縄国際大学南島文化研究所紀要 pp.101~110。
- 狩俣繁久(2019)「琉球語のとりたて表現」『日本語と世界の言語のとりたて表現』くろしお出版、77-95

かりまたしげひさ(2011)「琉球方言の焦点化助辞と文の通達的なタイプ」『日本語の研究』  
第7巻4号、日本語学会, pp69~81。

山田健三(2004)「係り結び(再考)」『国語国文』15-33

**付記** 本発表は、国語研共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」、「対照言語学的観点から見た日本語の音声と文法」、基盤研究「言語系統樹を用いた琉球語の比較・歴史言語学的研究」、文化庁委託事業「危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究」、『恩納村史 言語編』編集の研究成果の一部である。